「圧倒的な勝利者になる」ローマ人への手紙　8 章 31 節から 39 節

2025.4.20　イースター礼拝

序論）

皆さん、今日は、このイースターの日に、教会にお越しくださり、ありがとうございます。みなさんと共にこうしてイースターをお祝いできることを心から感謝いたします。

みなさんは、自分は誰からも愛されていないのではないかと感じた時があるでしょうか？　もしくは、何かに失敗したり、事故や病気にあったりして、自分に価値を感じられなくなったことはないでしょうか？

北海道のクリスチャン作家として有名な三浦綾子さんは、元々は学校の教師をされていましたが、重い肺結核を患い、長期間の闘病生活をされました。そして、その病気の影響で声も出せなくなり、心身ともに疲弊して、生きる気力を失っていたそうです。また、当時、結核は「死の病」とされており、孤独と不安と絶望の中で「死にたい」という思いすら抱いていたそうです。

しかし、そんな経験をした三浦綾子さんが北海道を代表するような作家になり、多くの人に影響を与えるようになったのは、彼女が神様の愛に触れ、救い主、イエス・キリストに出会ったからでした。

今日、私たちがお祝いするイースターは、約 2000 年前に起こった、イエス・キリストの「復活」の出来事に基づいています。人によっては「死んだ人がよみがえるなんてありえない」と不思議に思うかもしれません。しかし、この出来事こそが、私たちにとって大きな希望になり、神様が私たちを救ってくださるという証しになっているのです。

今日は、先ほどお読みした聖書の中から、神様からの愛と希望のメッセージを受け取っていきたいと思います。

１）　神様はあなたの味方です

最初にみなさんに知ってほしいのは、神様はみなさんの味方である。ということです。別の言い方をするのならば、神様はみなさんを愛しておられるということです。先ほどお読みした聖書の 31 節、32 節にこのように書かれている通りです。

8:31 では、これらのことについて、どのように言えるでしょうか。神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう。
8:32 私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神

が、どうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるでしょうか。

　このみことばが書かれているローマ人への手紙は、パウロという人がローマにいるクリスチャンたちに向けて書いた手紙です。当時のキリスト教はまだユダヤ教の一派だとみなされており、実際、ユダヤ人のキリスト教徒から伝道されたローマ人が救われることが多くありました。
　そのような状況の中で紀元 49 年、ローマの皇帝クラウディウスが、ユダヤ人が、イエスが救い主かどうかということでローマ市中を騒がしたとして、ユダヤ人に追放命令を出しました。その結果として、騒動の原因となったユダヤ人はローマ市内から追放されることになり、騒動の原因の一部とみなされたキリスト教徒たちは肩身が狭い状況になったのです。
　当時のローマ教会はそれによって多くの指導者を失い、世間からは冷たい目でみられるようになり、非常に厳しい状況に置かれていたようです。そんなローマ教会のクリスチャンたちを励ますためにパウロが書いた手紙が、先程読んだローマ人への手紙です。

　パウロは、この手紙で、どうしてキリストを信じる者が救われるのか、なぜ、罪人の罪が赦されて、神様に正しいと認めていただけるのかを説明しています。
　今日は細かくお話することはできませんが、そのキリスト教の救いに関するあれこれを説明しているのが、今日読んだ箇所の前の部分であり、パウロは、キリストによって救われた者には、神様という味方がいて、神様が味方になっているのならば、誰も私たちには敵対できない。と言っています。

　私は小さいころ、犬が苦手でした。多分、近所に大きな声でよく吠える大きな犬がいたので、その犬の声が怖くて苦手になったのだと思います。ところが、私が小さい頃に仲が良かったお友達の家は、その怖い犬を飼っている家の前を通らなければいけませんでした。厄介なことに、その犬は首輪につながれているのですが、家の前には長いワイヤーが張られていて、そのワイヤーの範囲ならある程度自由に犬が走れるようになっていました。だから、その犬は、私が家の前を通ると勢いよく吠えながら走ってくるのです。もちろん、私のところまでは届きませんが、小さい頃の私にとっては恐怖以外のなにものでもありませんでした。でも、そんな怖い家の前を安心して通り抜けられる時がありました。それはお父さんやお母さんが一緒にいてくれたときです。お父さんたちがいた時は、例え犬が吠えながら走ってきて

も、お父さんたちが壁になってくれていたので安心でした。

自分より、力がある存在、偉大な存在が自分を守ってくれるとわかると、私たちは大きな平安を持つことができます。しかも、その人が自分のことを愛してくれており、何があっても自分を守ってくれると分かっているのならば、その平安はとびきりのものになるのではないでしょうか。

この世界をお造りになった父なる神様は、私たちを心から愛していてくださり、その上で、私たちの味方になってくださるお方です。なぜならば、神様は私たちのためにご自分の子どもを手放してくださったからです。32 節には、この神様のことを「私たちすべてのために、ご自分の御子さえも惜しむことなく死に渡された神」と書いています。

みなさん、イースターというのは、イエス・キリストがよみがえったのをお祝いする日です。よみがえったというからには、イエス・キリストが死ぬ出来事がありました。それがキリストの十字架です。
イエス様には何の罪もありませんでした。当時、ローマの皇帝からユダヤ地域の総督に任命されたポンテオ・ピラトという人は、イエス様のことを調べて、この人には十字架に値するような罪がないと断言しています。それなのにイエス様は、黙って人々の罵詈雑言を受け取り、自分を十字架につけて殺そうとする人々の訴えに対抗して、無罪を訴えるようなことはなさいませんでした。イエス様は、あえて人々からの侮辱を受け取り、ムチで打たれ、十字架という最悪の死刑で死ぬ道を歩まれたのです。なぜでしょうか。
イエス様が十字架で死ぬことこそが、世界中のすべての人の罪が神様に赦されるための唯一の道であり、神様の計画だったからです。

イエス様が産まれる 700 年前に書かれたイザヤ書という預言書にはこのように書かれています。

53:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、【主】は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。
53:7 彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。

（**56:6 を表示**）私たち人間は、神様なんか関係ない。自分は自分の好きなように生きる。自分の人生は、自分のものだ！　と、そのように言いながら好き勝手に生きています。

でも、この世界をお造りになり、私たちをお造りになった創造主なる神様がおられるのに、その神様を無視して好き勝手に生きることは、神様にとって大きな罪となります。そして、罪があるのならば、その人は裁かれ、その罪の責任を取らなければいけません。これは私たち、人間のルールでも一緒です。罪を犯したら、その罪の責任を追わなければいけない。では、この世界の創造主なる神様を無視して、好き勝手に生きた罪の責任はどのように取らなければいけないでしょうか。聖書は「罪の報酬は死です」と教えます。しかも、この死とはこの肉体が滅んで終わりの死ではなくって、永遠の死です。

でも、神様は私たちを滅ぼしたくないのです。永遠の死に追いやりたくないのです。だから、神様を無視している私たちを救うために、神様がなされたのが、私たちの罪を、ご自分の大切なひとり子であるイエス・キリストに負わせて、私たちの代わりにイエス様を十字架の上で殺すことです。一切の罪がない神の子を、罪人の身代わりとして殺す。それが、神様が定められた私たちの罪を赦し、救うための方法でした。

みなさん、この中に他人のために自分の子どもを犠牲にできる人がいるでしょうか。しかも、正しい道を離れ好き勝手に生きる罪人のために、自分の子どもを手放せる人なんて、いないのではないでしょうか。

でも、この世界をお造りになった父なる神様は、それをしてくださったのです。自分の子どものために、他人を犠牲にする親はいるでしょう。しかし、神様は、神様を無視する私たちのために、大切な我が子を見捨てて、私たちの罪を赦すようにされたのです。

なぜでしょうか。神様が、みなさんのことを愛しておられるからです。

冒頭にお話した三浦綾子さんは、やがて夫となる三浦光世さんから聖書のことばに触れ、神様の愛を知ることによって、絶望が希望に変えられ、その人生を大きく変えることになりました。三浦綾子さんの人生を変えた聖書のことばの一つに、クリスマスの時によく読まれるこの言葉があります。

ヨハネ 3:16

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

彼女はこの言葉に触れたとき、「私はこの世の誰にも必要とされていない、と思っていた。しかし、神は私をこれほどまでに愛してくださっていたのだ。」と感じたそうです。そして、これが彼女の人生の転機となり、彼女は、この神様の愛に応えたいと思うようになったそうです。

みなさん、イエス・キリストを私たちのために十字架に欠けてくださった神様は、私たちの味方です。そして、私たちのために神の国にあるすべてのものを与えてくださるのです。

２） キリストは最高の弁護士です

そして、今日、みなさんに覚えていただきたい２つ目は、みなさんにはキリストという最高の弁護士がおられるということです。

人には、多かれ少なかれ後ろめたいものがあると思います。例えば、夫を愛せない自分とか、子どもを愛せない自分、もっと言えば人を愛せない自分が嫌で嫌でしょうがない人もいるのではないでしょうか。

私が、以前、川崎の教会で奉仕していた時、絶えず正しいことを追い求めている人がいました。彼は自分にも他人にも厳しく、理不尽なことには納得がいかず、そして、いつも人と自分を責め続けている人でした。みなさんの周りにもいませんか？正しいことばかりを追い求め、人に厳しいことを言い、人間関係をギクシャクさせてしまう人。正しいことはいいことです。でも、私たち、人間は不完全なのでどうしても、正しくないことをしてしまいます。だから、正しい理想だけを人の意思や力で追い求めようとすると、やがて破綻し、人間関係が壊れたり、心に平安を持てなくなったりします。

そして、そのような時、自分で自分を責めたり、他の人を責めたりするのです。結果として、その人は心に大きな負担を抱えます。しかし、聖書はいいます。

8:33 だれが、神に選ばれた者たちを訴えるのですか。神が義と認めてくださるのです。
8:34 だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

神様は、私たちの罪の身代わりにイエス・キリストを十字架にかけて殺してくださいました。だから、私たちに対する刑は既に執行されているので、神様はこのキ

リストを信じる者のことを罪人として扱わず、義人、正しい人と認めてくださいます。
　そればかりでなく、私たちのために死なれたキリストご自身も、私たちのためにとりなしてくださるのです。キリストは私たちの心強い弁護人なのです。
　この私たちのために死んでくださったお方は、よみがえったお方でもあります。このキリストのよみがえりこそ、このお方が神の子であり、このお方の犠牲が、私たちの罪の代償として完全なものであることを示しています。

　みなさん、みなさんの中で、自分が死んで三日目によみがえる。ということを予告して、実際によみがえることができる方はいますか？　いませんよね。
　私たち人間にはとてもそんなことはできません。そもそも、よみがえることなどできません。一時的に心臓が止まった人が、病院で蘇生することはあります。でも、イエス様は死んでから三日目によみがえりました。通常、心臓がとまって１５分以上したら蘇生は不可能と言われています。ましてや、３日もたってしまったら、その体は腐敗し、近づくのもためらわれるような状態になるはずです。それなのにキリストは三日目に蘇られました。なぜでしょうか。それはこのお方がただの人ではなく、神様の子どもだったからです。人が蘇るなんて、私たちにとっては最も信じられないことですが、その信じられないことをしてくださったからこそ、このお方は神の子であり、このお方の死は、私たち、すべての人間の身代わりとなることができるのです。
　そして、聖書はそのような神の子なるお方が、神様の右の座について、私たちのためにとりなしていてくださる。弁護をし続けていてくださる。というのです。ここにキリストの愛が現れています。だから、聖書はいいます。

8:35 だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。
8:36 こう書かれています。「あなたのために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊と見なされています。」

　キリストを信じたからといって、私たちに一切の困難がなくなるわけではありません。むしろ、聖書をみたり、歴史をみたりすると、キリストを信じているがゆえに、迫害されたり、攻撃されたりした人たちは多くいます。しかし、それでも多くのキリスト教徒たちは、平安と喜びをもって信仰に殉じていきました。
　なぜならば、例えこの世のどんなものが攻撃したとしても、キリストという弁護

人がいることによって、私たちが神様に責められる事は決してないし、例え間違いを犯したとしても、何度でもやり直すことができるからです。キリストの弁護と、キリストの愛は何度でも、私たちを再出発させてくださいます。

３） 私たちは、圧倒的な勝利者になれます

だから、この手紙を書いたパウロは、「私たちは圧倒的な勝利者です。」と宣言しています。３７節

8:37 しかし、これらすべてにおいても、私たちを愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。

そして、続けてパウロは、確信をもってこのように語っています。38 節、39 節

8:38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、
8:39 高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

私は、最初、三浦綾子さんのことを紹介しましたが、最後には、デイヴィット・リング牧師という方を紹介して終わりたいと思います。

デイヴィッド・リング牧師（写真）は、脳性麻痺を持ちながらも、神の愛と恵みによって人生を立て直し、世界中で福音を伝える伝道者となった人物です。

彼は、1953 年、アメリカのアーカンソー州ジョーンズボロで生まれ、出産時に脳性麻痺を発症し、18 分間心肺停止状態にあったそうです。先ほど言ったように心肺停止して 15 分以上たった後の蘇生の確率はほぼゼロなので、そこから彼が生きながらえたことだけでも奇跡なのですが、脳性麻痺は残ってしまったので結果として彼は、一生足を引きずって歩き、たどたどしい言葉で喋るしかない状態になりました。

しかも、彼の不幸はそれだけで終わらず、彼が 11 歳の時には父親は膵臓がんでなくなり、15 歳のときに母親もガンで亡くなしてしまいます。彼はお母さんのことを深く愛しており、それゆえ、その母親のしは、大きな悲しみと孤独を彼に植え付け、死を願うほどになったそうです。

常に足を引きずって歩き、スムーズに話すことができない彼は、当然のように人々からの嘲笑や、いじめにあっていました。そんな中、彼は姉にせがまれ、教会につれていかれました。彼は教会にいくのが嫌で、牧師の説教に対しても「どうか黙ってほしい」と思っていたそうです。彼の心は、教会に対して、そして、キリストに対して閉じている状態でした。

しかし、そのようにいやいや礼拝に参加している時に、【主】イエスキリストが彼の心に語りかけているように感じたそうです。あとから、それは聖書にかかれているキリストのことばであることに気づいたそうですが、その時は、以下のようなことばをキリストから直接、心に語りかけられたように感じたそうです。

ヨハネの黙示録 3:20
見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

それは、ずっと孤独で苦しんでいた彼にとって救いのことばでした。だから、彼はその夜、「主イエス様、もしあなたが本当にそこにいて、本当に私を愛しているなら、私の人生に入ってください。私は孤独な、取るに足りない者ですが、今日から誰かになりたいのです」・・・「今日から誰かになりたい」と祈った彼のことばには、無価値な存在であった自分が、キリストによって愛されている確かな一人になりたい。という願いが込められていました。

そして、その結果、【主】イエスキリストが彼の人生の中に入り、彼は新しい存在になったと、デイヴィット・リング自身が証ししています。

彼は、イエス・キリストという素晴らしい医者のところに行くことができた。と述べています。そして、このキリストとの出会いによって、彼の悲しみは喜びに変わり、例え、身体的不自由さは変わらず残っていたとしても、その魂はイエス様によって癒やされ、健全なものに変えられたのです。

そして、彼はこのキリストを伝える伝道師になったのです。

結論）

みなさん、みなさんは神様に愛されています。神様はみなさんを愛しているからこそ、ご自分のひとり子であるイエスキリストを手放し、十字架の上で、皆さんの身代わりとなって死ぬようにされました。

だからこそ、みなさんの罪はもはや誰にも責められるものではなくなり、神様と

いう誰よりも心強い味方と共に歩めるのです。
　そして、みなさんのために死なれた方、いや、よみがえってくださったイエス・キリストは間違いなく、みなさんの罪を全部背負ってくださった神の子であり、みなさんのためにとりなし、弁護しつづけていてくださるお方です。

　だからこそ、このお方を信じて受け入れる者は、圧倒的な勝利者になることができます。例え、三浦綾子さんのように肺結核になってしまったとしても、デイヴィット・リングさんのように脳性麻痺によって障害を一生抱えて生きていかなければならなかったとしても、このお方によって救われた者は、キリストと共に新しく生まれた者にされ、誰にも、どんな苦労にも引き離すことができない神様の愛と共に歩む者とされるのです。

　既に信仰を持っておられる皆さん。みなさんは決して離れない神様と愛をもって歩んでいます。キリストの死とよみがえりは、それを皆さんに伝えています。だからこそ、例え、自分の弱さ、足りなさを感じたとしても、この世の困難、悲しみ、苦しみを経験したとしても、そのキリストの愛、神の愛を握りしめて、パウロのように確信をもって歩んでいきましょう。

　信仰を持っておられない皆さん。復活した【主】イエス・キリストがデイヴィット・リングに語りかけてくださったように、みなさんにも、心の扉を開くように語りかけておられるのではないでしょうか。

ヨハネの黙示録 3:20
見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入って彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

　みなさんが、心の扉を開き、イエス・キリストが自分のために死なれ、そして、蘇ってくださったという、この大きな奇跡を信じ、受け入れるのならば、キリストは皆さんの心に入り、新しいいのちを与えてくださいます。
　誰にも、何にも揺るがされることのないいのち。神様の愛、キリストの愛に満ち溢れた命を【主】は与えてくださるのです。どうか、この【主】を受け入れ、本当の平和を持つものになっていただきたいと思います。
お祈りします。